

アオサギ観察会

2019年6月14日

人工営巣地いろいろ

二十数年前に野幌コロニーが放棄されて以来、平岡と江別のコロニーは同規模の双子のようなコロニーでした。その江別コロニーが、つい先日、とうとう完全に放棄されてしまいました。原因はほぼ間違いなくアライグマでしょう。

北海道にはアライグマやヒグマによって住む場所を追われたアオサギが多くいます。けれども、彼らに残された営巣環境はそう多くはありません。江別にいたサギたちのほとんどは平岡や篠路に移ったようですが、篠路のアオサギがアライグマに見つかるのはもはや時間の問題でしょう。平岡にしてもここは大丈夫とは言えない気がします。それに、いずれも街中にあるコロニー、人とのトラブルも心配です。



Great Blue Heron Rookery Nesting Stand in Almond Marsh (<http://bit.ly/2ZlmY7J>)



Great Blue Heron Rookery in Utah. Photo by Linda Turner (<http://bit.ly/2ZkPNkP>)

こうした問題の救

世主として登場するのが人工営巣地です。日本ではあまり知られていないのですが、北米ではオオアオサギを対象に様々な形状のものが試されており、かなりうまくいっています。もちろん、造ってもサたちが来ないとどうしようもありません。しかし、台座の上に巣を置いておけば案外利用してくれるものなのです。たとえば、北見にある200巣近いアオサギコロニーも、そもそもは個人が別のコロニーに

あった巣を、数キロ離れた自宅裏の木に取り付けておいたのが始まりだったのです。

幸い、平岡、篠路、いずれのコロニーも、今のところ目立った苦情は出てませんし、アライグマにももちろんまだ見つかりません。とはいえ、野幌や江別のような惨事がいつ起こらないとも限りませんし、事が起こってからではもう手遅れです。少なくとも今のうちに代替営巣地の場所選定くらいはしておきたいものです。



Great Blue Heron Rookery in Barrington Lake. Photo by Daily Herald (<http://bit.ly/2KLyjKf>)